

日本放射線影響学会第62回大会 シンポジウム・ワークショップ公募要領 ver. 2

1) 日本放射線影響学会第62回大会のシンポジウム (SY) とワークショップ (WS) の企画を公募いたします。SY と WS の定義に準拠した内容にてご提案下さいますよう、何卒直しくお願いいたします。

※修正履歴1： 2カ所の黄色ハイライト部分を2019年3月4日に加筆修正しました。

SYの定義：学会として旬な大きな話題について、他分野の人も含めて既に認められている業績を持つトップの研究者や有識者数名がその業績をさらに発展させたものを講演する。従って、これまでの業績を集約した完成度の高い演題をとりあげるセッションである。通常、個別に質疑・討論を行うが、総合討論は行わない。時間は120分。英語を講演言語とした発表を推奨する（抄録・スライドは英語が必須ですが、学会連携SY、講演者に一般の方（大学人ないし研究者以外）を含むセッション、研究成果でなく政策・教育・キャリアなどを議論するセッション、および特別講演は例外とします）。1セッションあたりの非会員演者数は制限しません（参加費免除）。

WSの定義：旬なある程度の大きさの話題について、完成した研究成果というより未完成の進行中で最新の研究結果を報告しあうセッションである。斬新な考えや新しい方向性などを示すような発表が望ましい。聴衆との討論の中で助言や今後の方向性が指摘されることが望ましく、そのため長めのディスカッションをして論議を深める。総合討論はオーガナイザーの判断で有無を検討する。時間は90分。SY同様、抄録・スライドは英語が必須。1セッションあたりの非会員演者数は制限しません（参加費免除）。

2) 大会本部が企画中の指定SY・WSのタイトルとオーガナイザーは次の5件です（2019年2月17日時点）。

- ① 放生研国際シンポジウム：「Rethinking Radiation Injury I」 (SY)
オーガナイザー：松本 智裕（京大）
- ② 放生研国際シンポジウム「Rethinking Radiation Injury II」 (SY)
オーガナイザー：松本 智裕（京大）
- ③ 日本放射線腫瘍学会との共催シンポジウム「TBD」 (SY)
オーガナイザー：秋元哲夫（国がん東病院）、原田 浩（京大）

④ 日本放射線影響学会主導の他学会との共催シンポジウム「医療被ばくの影響とリスクに関する課題をどう学び、伝えるか（仮題）」(SY)

オーガナイザー：TBD (TBA)

⑤ 「リスクコミュニケーション（仮題）」(WS)

オーガナイザー：渡邊正己（京大）

3) 応募は、所定の企画提案書に必要事項をご記入の上、運営事務局 <62jrns@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp>まで e-mail でお送り下さい。整理のため、件名を「SY・WS 応募」としてください。受付後に事務局より確認のメールを返信します。1 週間以内に受付メールが届かない場合には事務局までご連絡ください。

4) 締め切りは、2019 年 3 月 29 日（金）午後 5 時とさせていただきます。

5) 応募多数の場合、プログラム委員会にて審査の上、採択の可否についてお知らせいたします。シンポジウムとワークショップの区分変更をお願いする可能性、および内容の類似する提案は調整をお願いする可能性があることをご了解下さい。尚、**今大会では、会員の発表機会を公平にするため、全セッションを通じて、演者として登壇（ポスター発表を含む）できる回数をお一人 1 回までに制限させていただきます。必ず全演者から内諾を得た上で企画をご提案下さい。**

6) SY と WS の座長はともに 2 人までで、日本放射線影響学会会員とします。座長をお勤め頂ける公募 SY と公募 WS セッション数は、お一人 1 つまでとします（ご自身が座長を務めるセッションで研究発表をされない場合は、他のセッションで演者として登壇して頂くことが可能です）。非会員演者数に制限はありません。非会員演者の参加費は免除とします。謝金・旅費・宿泊費はお支払いできません。

7) 学会の国際化を推進し、女性研究者と若手研究者の活躍を支援するため、「セッション全体の使用言語を英語とし、演者に女性・若手（40 歳未満）・外国人を多く含む企画」を優先して採択します。セッション全体の使用言語を「日本語」とされた場合でも、発表スライド（PowerPoint ファイル）と抄録は英語でご準備頂きます（ただし、学会連携 SY、講演者に

一般の方（大学人・研究者でない方）を含むセッション、研究成果でなく政策・教育・キャリアなどを議論するセッション、および特別講演は例外とします）。

以上